

三、歴代 (一)

代	世	名号	出自	晋 隱退・移籍	山	在任	遷 化	事 蹟・特 記
開基		千蔵院 日慶上人	関東又は奥州南方の人の様だが、生系など不詳。偶々常楽院日経上人が、天正十年奥州布教の途次、会津本山妙法寺に数年おられた時に、その化道に浴し、後、日感大徳に師事。顯本の教旨と死身弘法の気魄を受くる。斯くして広布の師命を拝して、単身盛岡に入る。姓氏不詳。	天正一八年、盛岡に一字建立、山号を上行山と号し、法華寺と称す。この当時は、盛岡の地は、年と共に殷賑の度が加わり、南部藩の居城に定まろうとする形勢にあったので、好縁を得て、盛岡に留まり、開山の運びとなったものである。慶長十六年遷化		22年	慶長16年10月28日	天正十八年漸く一字を建立し、翌十九年純信の教徒を集め開山日什大正師の二百遠忌を度修す。兼ねて開堂の供養を擬し、其の山号を上行山と号し、法華寺と称し、上人の抱負の雄大さを知ることができる。
第二世		光立院 日進上人	始め日性と称す。本山妙満寺の歴代日性上人と同称の故、宗脈公表に際し、日乘上人より日照と改号を贈られたもの。	不詳		27?	寛永16年3月29日	
第三世		住善院 日照上人	不詳	不詳		?	不詳	
第四世		實成院 日養上人	不詳	不詳		?	不詳	寛永十七年檀徒数名を妙満寺に遣わし、日乘上人に、開教以来の顛末を陳べ、允許を受けて顕

三、歴代

代世	名号	出自	晋山・退籍	在任	遷化	事蹟・特記
第五世	久本院 日生上人	不詳	不詳	不詳	延年五年正月七日	本法華の宗脈を公表し、寛永二十年には、上洛して親しく貫主日要上人に謁し、当山中興の祖と称賛された。 寛文三年寺を現在地に移転す。よく今日の基礎を大成せしめた。
第六世	宗元院 日普上人	法を日生上人に享く。	延宝五年三月晋山。元禄元年六月隱退。	12	享保四年一月二十二日寂す。	上人は、実に大力無双の偉丈夫にして、七十九人力あったと伝えられる。
第七世	暁了院 日秀上人	日生門下の俊傑	元禄元年六月晋山。宝永五年七月隱退。	21	享保二年二月七日遷化	深く門弟の養成に力を注ぐ。幾多の英才を出す。第九世より第十二世迄の四代の山主は、何れも上人の門下より出ず。
第八世	策進院 日表上人	字は通眞と称す。第六世日普上人の門弟。	宝永五年七月二十日晋山。数日にして隱退す。その所以不詳。	0	享保九年三月四日寂す。	
第九世	唯性院 日邇上人	日秀上人の高足。字は通天異本に慮天とあり。	宝永五年七月二十四日晋山法燈を紹介ぐ。	10	享保二年二月十一日寂す。	
第十世	照性院 日隣上人	字は在現。日秀上人門下。	享保二年四月晋山	1	享保三年十一月十六日遷化。	
第十一世	具性院 日瑠上人	盛岡の出身。字は、米運。元禄十六年三月十歳の時、日秀上人に就いて得度。	享保四年四月十一世法燈を相続す。享保十七年閏五月隱退す。	14	元文三年十一月二十二日四十五歳で遷化す。	才幹博識殊に辯論に長じ、藩内寺院の觸頭を命ぜられた。享保十五年城下の禅刹報恩寺一華和尚と「四箇格言」問題につき教用上の論議を闘わし凱歌を挙げ、

第十二世

明珠院
日芳上人

字は、盡教、羽州鹿角郡花輪町に生る。宝永元年六月七歳で日秀上人の門下に入る。

享保十八年六月法燈を嗣ぎ晋山。宝暦四年二月隱退

22

宝暦六年五月十日寂す。五十九歳。

一華和尚のために、「達摩像」の大軸とこれの扶持料として畑地を贈った。現在に至っている。頗る俊傑にして宮谷檀林に学び、玄能職に進み、力を育英に注ぎ、後進のために「南部寮」を創建し人材養成に努めた。又、本山妙満寺の歴代である、了解院日童上人、觀了院日元上人は共に、日芳上人の門下より出ず。

第十三世

晋性院
日富上人

法を日瑠上人に享くる。字は、純應。始め法華寺の末庵本妙院に住した。

宝暦九年二月五日晋山。

第十四世

敬信院
日廣上人

字は寛禮、日芳上人の門弟。安永四年六月看主職として就任し、寺務を視ること六年。天明元年八月名を日廣と改む。

天明元年八月宗命を以て第十四世の法燈を相続す。後病の爲め、隱退す。

安永四年二月二十三日五十五歳で遷化す。七十二歳で寂す。

法華寺の在職年及び生家等不詳なるも、後、江都浅草慶印寺を督し、更に本山妙満寺貫主に進み、百五十三世の法燈を紹ぐ。権少僧都に敍せられた。

第十五世

觀了院
日元上人

盛岡に生れる。字は、素禪。日芳門下の英傑。

第十六世

信敬院
日明上人

稗貫郡新堀村に生まれる。字は義空。日廣上人門下。

文化七年三月二十一日新山。

天保三年七月二十二日六十五歳で寂す。

親は西田宇兵衛後藤原姓後城守姓

三、歴代

第十七世

清淨院
日甫上人

日廣上人の門下。後、京師に上り妙満寺日元上人

文政十一年十一月十五日法燈を相続す。

文政十三年一月二十八日寂す。

代 世	名 号	出 自	晋 山 隱 退・移 籍	在 任	遷 化	事 蹟・特 記
第十八世	観明院 日誠上人	に師事す。 字は、素教。妙満寺権少 僧都日元上人の高弟。	天保三年六月二日法燈を相続 す。		五十三歳。 安政二年七月二 十八日遷化する。 八十五歳。	宮谷檀林玄講百八十七世の師範 を勤む。法燈を相続後、その高 徳を慕い来て師事するもの十八 人の多きに達した。
第十九世	妙解院 日顕上人	字は、智達。権少僧都誘 日上人に師事。	天保十三年十月一日晋山す。		明治二年九月十 九日寂す。七十 三歳。	行学篤厚の師であった。岩手県 下の派内教導取締を申し付けら れ、明治七年教部省より権少
第二十世	眞如院 日海上人	本姓は、伊保内氏文政九 年、盛岡に生まれた。観 明院日誠上人に師事す。 字は、禅教。	明治元年七月七日晋山す。明 治三十三年七月、法子、日研 師にゆずり、奈須川町の以信 院に隠退し、悠々老を養う。 累進して僧都に叙せられた。	33	八十三歳。	講議に任せられる。本堂の再 建、寺門の整備化益県下にあま ねく亘った。新たに檀徒に加 わるもの数十名の多数に達し た。
第二十一世	就学院 日研上人	本姓は、細越氏盛岡に生 まれ、字は、元教。日海 上人の高足である。	明治三十三年七月二十六日、 品川眞了院より入って法燈を 嗣ぐ。権僧都に叙せられた。 大正十年四月二十五日引退 し、奈須川以信院に悠々自適 の境に入る。	22		宗命を体して別勧請の撤廃を断 行した。
第二十二世	日暢上人	権大僧正鈴木日雄上人の 高足 当法華寺二十四世 日昌上人の法兄 高田家の産。	大正十年四月晋山、同年十一 月轉住。	1	昭和四十年十月 二十日当寺にて 示寂。世寿九十 六歳。	当寺の住職期間は半年宗命によ り、大正十年十一月千葉長生 郡二宮本郷村如意輪寺へ轉住し た。その後鳥取法泉寺（通称

<p>第二十三世 観世院 日音上人</p>	<p>本姓は木下氏静岡岡崎鷺津生れる。同県浜名郡太田の妙安寺で得度。知見院日諭上人に師事せり。</p>	<p>大正十年十二月大土肥妙高寺より入って法灯を嗣ぐ。</p>	<p>11年</p>	<p>昭和八年一月九日、病氣療養中遷化す。寿六十二歳。遺言により、大土肥妙高寺に葬る。</p>	<p>ポックリ寺)に転住。宗祖六百五十遠忌奉修後法灯を嗣ぐ、後病を得て豊橋市に轉地療養。</p>
<p>第二十四世 日昌上人</p>	<p>田口氏にして栃木県の生れ。権大僧正鈴木日雄上人の門に出づ。篤行気鋭にして春秋に富む。檀信徒の帰依頗る篤く、内外に教線を張り活躍は縦横であった。</p>		<p>50年</p>	<p>昭和六十三年七月五日遷化世寿八十八歳</p>	<p>千葉泉妙典寺、宝蔵寺住職を経て、昭和八年法華寺に入寺、昭和五十八年退寺。昭和十三年盛岡市議会議員として、宗門人としては初めての快挙。権大僧正、一級法功章。弟子は長円寺佐藤光宣、法華寺田口信之、瑞然寺佐々木瑞英、実成寺故佐藤寿晃各師。</p>
<p>第二十五世 日観上人</p>	<p>第二十四世田口日昌人の弟子(長男にして名は信之)</p>			<p>現住職。</p>	<p>昭和六十三年位牌堂新築、平成三年鐘樓堂新築、同年日什大正師六百遠忌奉行。平成九年人権擁護委員となる。</p>

(一)

上行山開基日慶上人

千蔵院と号す(異本泉蔵院とあり)

日感大徳に師事したりと傳う。

其生系等

詳かならず。

想うに、上人は関東若くは奥州南部の産にして偶々常楽院日経上人天正十年奥羽布教の途に上り、折